

● 避難の判断と避難するときの注意点

避難に対する基本的な考え方

自らの判断で避難行動を～危険を感じたらすぐ避難しよう～

近年、台風による大雨等により逃げ遅れた住民が被害を受けるケースが多くあります。特に突発的な集中豪雨では、市の避難に関する情報が間に合わない場合もあるため、危険を感じた時には自らが判断し、避難行動をとる必要があります。

風水害では、事前に気象情報を入手することができるため、正しい情報の入手と早めに避難行動をとることがとても重要です。

優先① 早めに安全な親戚・知人宅、自治会公民館等へ避難

優先② 市が開設する指定避難所へ避難(21～25ページ)

優先③ 避難することがかえって危険な時は屋内での安全確保(垂直避難)

自主避難を行う場合

自主避難とは、災害時に市が発令する「【警戒レベル3】避難準備・高齢者等避難開始」、「【警戒レベル4】避難勧告」、「【警戒レベル4】避難指示(緊急)」、「【警戒レベル5】災害発生情報」を待たずに、自主的に避難することをいいます。これは、大雨・台風接近などの自然災害や大規模事故などで身の回りに危険(リスク)を感じ、個人または家族単位で自主的に行う避難を意味します。

《自主避難所への持ち物》

市からの公的な支援はありませんので、避難中の食料品、飲料水、携帯ラジオや生活必需品(日用品、着替え、寝具等)はご自身で準備し持参してください。



屋内の安全確保～命を守る最低限の行動～

大雨の時には上記優先①、優先②のように早めに安全な場所へ避難する「立ち退き避難」が原則です。しかしながら、夜間や急な大雨等で家の外に避難することがかえって危険なときは、河川等から離れた屋内で2階以上のより安全な部屋に移動し安全を確保するなど、命を守る最低限の行動をとることが重要です。

避難の判断ポイント

◆大雨時には早めの避難

浸水想定区域や過去に内水の被害があった地域に住んでいる人は、大雨の際や台風の接近が予測される場合、早めに近くの避難所等の安全な場所に避難しましょう。

◆暗くなる前に避難

夜間に大雨が予測される際には、暗くなる前に避難することがより安全です。特に高齢者等の支援が必要な方がいる場合は、移動時間を考えて早めに行動しましょう。

◆避難に関する情報が発令された時

市から避難準備情報・避難勧告等が発令されたときは、指定避難所等に避難しましょう。

